2011 年度国際政治経済論 1(計 14 回)

下川　雅嗣
研究室 2 号館 10 階 1011 号室(内 3576)
ホームページ URL: http://pweb.cc.sophia.ac.jp/shimokawa/

［授業の目的・内容・進め方・履修上の条件等］

現代国際政治経済の諸問題を出来る限り経済学の方法論に基づいて議論する。扱うトピックスは、貿易政策の政治経済学、国際経済体制、地域経済統合、グローバリゼーション等である。その際、貧困国の視点にも触れたい。前提とはしないが経済学の基礎的な知識があることが望ましい。なお貧困問題については国際政治経済論 2 で集中的に扱うので続けての受講を勧める。

［評価方法］出席及び試験で評価する。なおブックレポートを提出したものは 20 点の加点。

＜教科書＞特に定めない。

＜参考書＞

① **クルーグマン・オブズフェルド著（山本他訳）（2010）『クルーグマンの国際経済学―理論と政策（原著第 8 版）：上巻　貿易編』、ピアソン桐原。**←Krugman, P. R. , Obstfeld, M. and Melitz, M. (2011), *International Economics: Theory and Policy*, 9th Edition, Prentice Hall. (なお以下の旧訳でも基本的内容はそんなに変わってないので、以下のものを持っているものはそれでも良い。**クルグマン・オブズフェルド（石井・浦田・竹中他訳）（1996）『国際経済―理論と政策：Ⅰ国際貿易』第３版、新世社。)→クルグマン氏は 2008 年ノーベル経済学賞受賞。**

②**クルグマン著（山岡洋一訳）（2000）『良い経済学、悪い経済学』日経ビジネス人文庫**（Krugman, P., 1996 "Pop Internationalism," MIT press)。

→「国と国が競争していると言うのは、危険な妄想であり、経済の基本原理が理解されていないことと、国内政策の怠りを誤魔化すために政治的に利用されているものであり、そのような意識が広がれば、国内政策を一層歪め、国際経済システムを脅かしかねない。」と政治家、官僚、マスコミ、経済評論家の中に蔓延している俗流国際経済論への批判したエッセイの集まり。

③矢野誠著（2001）『ミクロ経済学の基礎』岩波書店。

③'矢野誠著（2001）『ミクロ経済学の応用』岩波書店。

→経済学を基礎からきちんとやりたい人はこの本をまず読むことをお薦め。この続編として『ミクロ経済学の応用』もあるが、この 2 冊を熟読すれば、学部レベルの経済学のすべて、及び経済学的な考え方・センスの本質はほぼ修得できる。国際経済学の授業ではこれも用いる。

④絵所秀紀（1997）『開発の政治経済学』日本評論社。

→経済開発に主眼をおいた立場での国際政治経済学の学史を紹介（経済学を知っている）

⑤Stiglitz (2002) *Globalization and its Discontents* (Ch.3,4 のみで十分か), ALLEN LANE(**鈴木訳：『世界を不幸にしたグローバリズムの正体』徳間書店**：ただし表題のつけ

方及び翻訳はかなりひどい)。

→IMF, 世銀の現実の施策についての元世銀チーフエコノミスト（2001 年ノーベル経済学賞受賞者）の批判的指摘。特に現代の国際経済体制およびグローバリゼーションの問題点の指摘が行われている（しかし学術書ではなく、また書き方はくどい)。

⑥Joseph Stiglitz (2006) *Making Globalization Work*, W.W.Norton & Company, Inc.(**楡井浩一訳（2006）『世界に格差をバラ撒いたグローバリズムを正す』徳間書店)**

⑦Joseph Stiglitz and Andrew Charlton (2005) *Fair Trade For All; How Trade Can Promote Development*, Oxford University Press.(**浦田秀次郎監訳、高遠裕子訳〔2007〕『フェアトレード：格差を生まない経済システム』日本経済新聞出版社。)**

⑧村井吉敬（2006）『グローバル化とわたしたち―国境を越えるモノ・カネ・ヒト』岩崎書店。→グローバル化について子供向けに書いた本だが内容はしっかりしている。

⑨野村・大芝・納家・長尾著（2003）『国際政治経済学・入門[新版]』有斐閣アルマ。

→標準的な国際政治経済学のテキスト（ただし政治学からの流れ)。

⑩下川雅嗣（2007)「経済学から見たグローバリゼーション」『コスモポリス』 1, 63-69。

→下記 9-13 の項目を抜粋して要約したもの。

⑪下川雅嗣（2006）「国際政治経済学」（上智大学外国語学部国際関係副専攻編『新・国際関係論のすすめ』pp.35-40.）

→国際政治経済学という学問のイントロダクションとこの分野への下川の関心の由来。

****

［授業計画］（スケジュール）

1. イントロダクション：国際政治経済学と経済学、経済・政治・文化→⑪、⑩

2. 貿易政策と政治経済学Ⅰ：基本的理解→①（８版３章、３版３章）

3. 貿易政策と政治経済学Ⅱ：レントシーキング活動→①9 章、④10 章、④2 章

4. 貿易政策と政治経済学Ⅲ：自由貿易擁護論と反対論→①（8 版 9 章、3 版 10 章)、②６章、⑥、⑦（以上２、３、４は本来は国際経済学での経済学的基礎が前提)

5. 国際交渉・国際貿易協定の経済学的基礎→①（8 版 9 章、3 版 10 章）

6. 国際交渉と国際経済体制→①（8 版 9 章、3 版 10 章）(制度及び歴史が一番詳しいのは⑧)

7. 地域経済統合Ⅰ：差別的貿易協定→同上。他⑥、⑦

8. 地域経済統合Ⅱ：世界の自由貿易協定→同上。他⑥、⑦

9. グローバリゼーションⅠ：経済学の視点から見たグローバリゼーション、財の移動（貿易）→⑩、(⑥、⑦)

10. グローバリゼーションⅡ：労働移動、資本移動→⑩、①7 章、⑧、⑦、⑥

11. グローバリゼーションⅢ：海外直接投資と多国籍企業→⑩、①7 章,⑧、⑦、⑥

12. グローバリゼーションⅣ：地域経済学からの問題提起→①（３版のみ８章）

13. グローバリゼーションⅤ：集積の経済と不均等発展→①（３版のみ８章）

14. グローバリゼーションⅥ：本質的問題とオルタナティブ→⑩、⑤、⑧